

# りれいしよん

第34号

発行日 / 平成30年8月

## メンタルヘルスだより



平成30年6月28日、第43回三家連精神保健福祉大会が「地域で地域の人とともに暮らしたい」をスローガンに志摩市阿児アリーナで開催されました。

大会は約450名の参加があり、盛況に開催されました。



日本福祉大学 教授 青木 聖久 先生

とても分かりやすく  
心温まるお話でした。



みえ発!こころのバリアフリー大使  
落語家 露の眞 さん

### 34号の内容

- トピックス「リワークプログラムについて」…………… 2
- 助成団体の紹介…………… 6
- 障がいがある方の地域生活支援の取組…………… 8
- シリーズ【統合失調症 リレーメッセージ⑨】  
～訪問看護の立場から～…………… 10
- 平成29年度事業報告・決算報告、  
平成30年度事業計画・収支計画…………… 11
- 第51回精神保健福祉三重県大会のお知らせ…………… 12

### 三重県精神保健福祉協議会

#### ●事務局

〒514-8567  
三重県津市桜橋3丁目446-34  
三重県こころの健康センター内

TEL059-223-5241  
FAX059-223-5242

表紙に掲載する作品については、募集を行っています。  
協議会事務局のホームページの応募方法をご覧ください。  
ご応募お待ちしております。<http://kyougikai.umu.cc/m-seishin/>



このメンタルヘルスだよりは、三重県共同募金会からの配分金を活用して発行しています。

## トピックス 「リワーク・プログラム」ってなあに？

うつ病やストレス性疾患など精神疾患から休職している方などで復職に向けた準備を考えている方を対象に復職をサポートするものに「リワーク・プログラム」というものがあります。

今回からリワーク・プログラムを行っている県下のいくつかの医療機関の取組状況をご紹介します。

まずは、三重県立こころの医療センターで行っている「リカバリーデイケア」とパソコンのゲームソフトを使った認知機能リハビリテーション「NEAR（Neuropsychological and Educational Approach to Cognitive Rehabilitation）」の取組みをご案内します。

## リカバリーデイケア（復職・就労支援プログラム）について

地域生活支援部 生活支援室 作業療法グループ 中西 伸彰

こころの医療センターでは、病休・休職もしくはこれから働きたいという患者様に対し就労支援を行うリカバリーデイケアというサービスを提供しています。元々は作業療法のプログラムの一つとして9年前に生まれた経緯があり、当時のリハビリテーションサービスは行動療法（木工、革細工、陶芸、内職作業等）が主体となっており、仕事を含む社会生活に対するアプローチはそれほど多くはなかったです。

### 【プログラムの風景】



しかし、作業療法プログラムを安定して利用され病気の自己コントロールが出来るようになってきたある患者様に「本当は働きたい…」という本音を話していただいたことをきっかけとして始まり、また、精神科分野での地域移行が進んでいく中で、必然的な動きであったと考えています。

軸となるモデルはリカバリーモデルです。病気、障害があったとしても、当事者がどのように生きていきたいかが大切であり、目標を達成し定着していくにはどんな練習と学習が必要なのかをスタッフが学び、そこからエビデンスに基づいたプログラムの立案・実施を行ってきました。

現在行っているプログラムは大きく分けると、認知行動療法・認知機能リハビリ(NEAR)・SST・運動療法などを行っており、いずれも『予防』に働きかけることが大きなポイントとなります。

復職・就職を目指す患者様にとって、こころの健康状態が悪化する前にはどのような状況があり、今後そのような状況に対し今までとは違う対処がとれるようになることが大きな特徴であります。

また、こころの病気・障害があったとしても夢や目標を思い起こしながら、具体的に練習していくなかで様々な気づきが生まれ、「経験」-「学習」-「修正」という次に生かす支援が大切であると言えます。

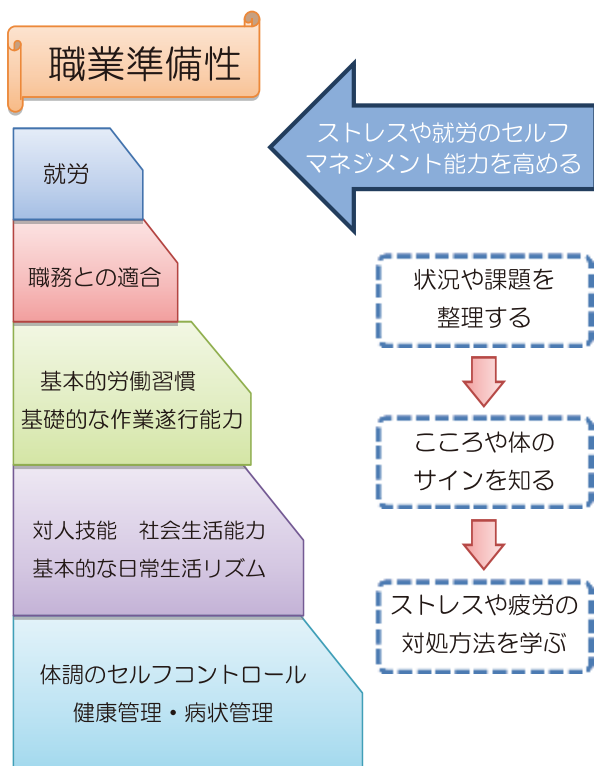
患者様、ご家族のニーズを大切にしながら、スタッフも成長させて頂いています。また卒業生の方々と交流会を年3回実施しており、この交流会は、辛さを知る当事者がピアサポーターとなり、これから働くことを目標にしている方々と意見交換や経験の共有を行う場として行っています。

現在、実際に地域で仕事をしている方の生の声を聴くことは、非常に説得力があります。

孤立しやすい時代と言われる中で、やはり一定の繋がりが大切であることを教えていただき、今後も患者様、ご家族、スタッフがより良い未来を協働で作りに上げるような取り組みを進めていきたいと考えています。

なお、一日の平均利用者数は10名前後~20名程度で、復職を目標にされている方々の目標達成率は84%、就職目標の方々は就労継続支援A型事業所、同B型事業所を含め58%となっています(平成29年度)。

## リカバリーデイケアの考え方 (就労に向けたステップアップ)



## プログラム内容のご紹介

お伊テ-ション	スタッフやメンバーの紹介、前半はストレッチ・ツボ体操などを行います。後半はメタ認知トレーニング、認知行動療法のスライドを使い学習します。
WRAP <small>(元気回復行動プラン)</small>	自分自身が元気でいるために自ら作る行動プランです。元気に過ごせる時、調子が悪くなるサインが出た時など6つの段階のプランを作ります。
お伊ワーク	1週目は新聞記事などを読んで考えをまとめ、3週目はテーマに沿ってパソコンで文章作成し、相手に伝える練習をします。2・4・5週目は体験学習の中で気づきを深めます。
運動療法	こころの健康回復と予防効果のある運動を、個々の体力に合わせ楽しく身体を動かします。エルゴメーターやウォーキング、体幹トレーニングなどを行います。
集団認知療法	毎回テーマを決めて、その対処法についてミーティング形式で話し合います。メンバー同士で意見を出し合い、自分の物事の捉え方を振り返ります。
SST <small>(社会生活技能訓練)</small>	自分の物事の捉え方や苦手な状況を考慮に入れながら、コミュニケーションの場面を想定してロールプレイを行います。
NEAR <small>(認知矯正療法)</small>	注意・集中・記憶・問題解決などの認知機能の訓練を行います。前半はパソコンゲームを用いた反復練習を行い、後半は生活につなげる話し合いを行います。
お伊エ-ション	スポーツや料理など、メンバーでやりたいことを決めて取り組みます。家庭で取り組める趣味や新しい自分を発見する時間になります。
個別面談	就労や復職に向けての課題や目標を一緒に考えます。

# 認知リハビリテーション(NEAR)について

地域生活支援部 生活支援室 作業療法グループ 三好 哲也

## 【認知機能について】

医療の現場では統合失調症の陽性症状について多く語られるが、認知機能が話題になることは少ない。しかし、注意・集中・記憶・遂行機能・言語流暢性などの認知機能障害の有無が社会転帰と密接に関連していることが明らかになっており、そこでさまざまな認知機能障害へのリハビリテーションが開発されています。そして、対象も統合失調症のみならず、気分障害やアルコール依存症などに広がりを見せています。

## 【NEAR】について

NEARとは認知機能障害を改善する認知矯正療法の一つです。NEARの大枠は認知機能をターゲットにしたコンピューターセッションで認知機能を改善し、言語セッションで生活への橋渡しを行い、般化および強化を目指すものであり、治療でパソコン課題を用いるメリットとして

- ①ゲームは失敗しても傷つきが小さい
- ②個人のレベルに合わせやすい
- ③反復練習ができる
- ④対人関係が苦手でもできる
- ⑤課題達成への道筋が明確で、正のフィードバックがしやすいこと が挙げられています。

## 【NEARの風景】



## 【当センターでの取り組み】

NEARをRDC(就労・復職支援プログラム)の中の一コマで実施しています。働くうえで必要な認知機能に課題がある方がいるが、自覚できていないことや、言語化できていない場合もあります。参加時は北大式認知機能検査と面談を実施し、生活や仕事を振り返って課題を明確にすることから始めます。その結果、職場への本人説明の補足となり、配慮してほしいことが明確になった参加者もいます。また、「自分の特徴を知れてよかった」など課題克服を目指しRDCへの参加意欲にも向上が見られた方がみえます。

工夫している点としてはNEARで気づいた課題を違うプログラムで話し合ったり、対処行動を考えたりと他のプログラムとの橋渡しにも力を入れていることです。

また、プログラム以外でも使用できる認知機能課題の情報提供や補償の方略も話し合っています。6か月継続した参加者は認知機能の改善と生活での変化を実感していることが再評価でわかりました。その中で明らかになった効果の副産物として、「今」の意識が高まることが挙げられます。

自分にとっての不快な記憶やフラストレーションによる「生きにくさ」、環境因子からくる「生きづらさ」に注意が集中されやすい症状からの転換と分割の働き、客観視する力の成長も期待できるのかもしれないと感じています。

**対象疾患** 統合失調症(発症10年未満)、双極性障害、アルコール依存症  
※知的障害や発達障害は認知機能リハの恩恵が得にくいというデータがある。

- 年齢13～65歳
- IQ70以上
- 読み取りレベルが小学4年生以上
- 現時点でアルコール乱用者でないこと
- 何らかの中毒における解毒から1か月以上経過している
- 過去3年以内に頭部外傷歴がないこと
- セッションに際して、座っていただけるくらいに精神状態が安定していること

**実施期間** 6か月

**実施頻度** 週2回

(コンピューターセッション(60分)、コンピューターセッション+ブリッジングセッション(90分))

**導入手順** ①主治医及び本人の同意  
②オリエンテーション  
③北大版認知機能検査(WCST、TMT、WFT、言語記憶検査、JART)  
④フィードバック  
⑤セッション導入  
※自己効力感の評価(SCEL)、社会機能評価(UPSA、LASMI)

**連絡先** 〒514-0818 三重県津市城山一丁目12-1  
三重県立こころの医療センター 地域生活支援部 生活支援室  
電話 059-235-2125(代表)、ファクシミリ 059-235-2135

# 三重県精神保健福祉協議会助成事業の紹介

## 三重県こころのボランティア協議会

### 団体の立ち上げ

平成元年に三重県こころの健康センターで開催された「精神保健ボランティア教室」の受講生の活動がきっかけになり、各保健所で講座を開催しボランティアの育成が行われ地域にボランティアグループが結成されました。平成11年、三重県精神保健ボランティア連絡協議会(現在の名称・三重県こころのボランティア協議会)を立ち上げ、行政、地域、家族会等と情報交換や活動の連携を図りながらボランティア活動を行っています。

### 活動内容・課題

各団体が地域において、サロンやフリースペースでの交流、支援、相談、学習会の開催、自主活動、家族会・事業所等のイベント支援を行っています。他地域のボランティア活動の協力など各地域間の連携も行っています。定例会は各地域の活動状況の報告や情報交換、会員相互の学びの場となっています。しかしボランティア自体も高齢化が進み、どこの団体でも悩みを持ち始めています。2018年3月の「三重県こころのボランティア協議会の集い」では昨今、“大人の心の病、働く人たちの心の病”なども増えていることを黙視する事はできないと話題になっていました。

### 活動紹介

「こころのボランティアふわぁっと」は1999年9月に発足し現在会員4名です。生きづらさを抱えた人たちが気軽にフリートークできる「心来」は2011年から月2回開き、また3か月に1度臨床心理士の先生を迎えSSTをしています。今年の3月からはアサーションの勉強会も始めました。どの回もあたたかなアットホームな雰囲気です。

様々な場面で当事者ならではの貴重な体験が聞けたり、SSTでは感動的な場面に出会えたりします。家庭をもったり、就職したりその人の人生の回復に寄り添ってゆっくり歩いてこられたことがボランティアをしてよかったことだと思います。講師の先生方や会場を貸して下さるクリニックの先生、保健師さんなど多くの人に支えられ継続してできてきました。そして何よりも「心来」を楽しみに来てくれる人がいることが励みになっています。



スポレク祭・体力測定



ハートフル会・創作



三重てのひら・昼食作り

### 三重県こころのボランティア協議会の加入団体と活動内容

志摩	チーム笑美'S	障がい者就労支援など
津	三重てのひら	当事者サロン・昼食づくりなど
伊勢	ふわぁっと	当事者会支援など
伊賀	ほほえみ	当事者支援・施設運営支援 など
鈴鹿	ベルの会	当事者サロン・フリースペース支援、事業所昼食づくりなど
四日市	ハートフル会	事業所支援(給食づくり・創作ボランティア) など

# 伊勢市精神障がい者スポーツ交流会

## 設立のきっかけと現在

以前から伊勢保健所でデイケアの1つとしてソフトバレーを行っていました。その後、伊勢保健所が行う精神保健福祉会(チーム伊勢)からもう少し組織的な活動ができないかとお話があり、精神保健福祉会の構成メンバーである行政、福祉事業所、関連団体が協力して支援する形で平成24年4月1日に伊勢市精神障がい者スポーツ交流会を結成致しました。

それまでも三重県精神保健福祉会(さんかれん)が主催するソフトバレーの県大会にも出場していましたが、残念ながら一度も勝つことが出来なかった。しかし、会を結成し組織だった練習や仲間との交流・連携を持つことにより、他のチームに勝利することもできました。

勝つことが目的ではないにしても、団結すれば何かの結果が出ることや、利用者間の交流ができ和気あいあいと日頃練習を楽しんでいます。大会には応援団も参加し楽しんでいます。

平成29年にはユニフォームも出来ました。



応援団のみなさん



県大会試合の風景

## 活動内容

- 練習日 … 月1回 第3火曜日 県大会の時期は月2回行う
- 時間 … 13時~15時
- 場所 … 三重県営総合競技場体育館(三重交通Gスポーツの杜伊勢)
- 大会 … 三重県精神障がい者ソフトバレー大会に出場
- 参加方法 … 自家用車等で各自参加、送迎している事業所も有り
- 参加費 … 原則無料
- 参加資格 … 上手、下手は関係ありません、どなたでも可。楽しんで下さい。

## 会が出来てよかった事

- ★他の事業所の方との交流ができた。
- ★声が出せるようになり、日常の生活やいろいろな場面でプラスの効果が出ている。
- ★団結や連帯の必要性が理解でき、事業所等での作業も良い結果が出ている。

## 今後について

練習が休日ではないので、最近は参加できない方があり、参加者が少なくなったのが気になります。精神保健福祉会(チーム伊勢)の活動も先細りになり、構成メンバーの支援も希薄になってきていますが、なんとか継続をとしたいと思います。

## 事務局

〒516-0076 伊勢市八日市場町2番14号 NPO法人マイトリ内 担当 溝井 力電話/FAX 0596-26-3277

# 誰もが自分らしい生活ができるために

## ～障がいがある方の地域生活支援の取組～

前回の第33号で「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」について、ご紹介したところですが、今回から、地域で安心して生きがいを感じて、自分らしい生活ができるように取り組んでいた事業所をご紹介します。

第1回は、社会福祉法人 名張育成会の取り組みをご紹介します。

## 地域で普通のくらしをするということ

社会福祉法人 名張育成会 暮らしサポートゆっくる 所長 森 徹雄

名張育成会です。私たちは現在、名張市内で15か所、伊賀市内で1か所、合計16か所のグループホームを運営しております。定員は全員で91名です。

名張育成会では法人理念「だれもが人として大切にされ地域で自分らしく生きる…」のもと、長い月日をかけてゆっくりと障がい者の地域生活移行支援を行ってきました。グループホームを運営開始したのは平成3年からで、もう27年目に入りました。入居者の年齢は23歳から83歳まで広範囲に及び、また日中活動についても、法人の生活介護事業所等を活用する場合もあれば、他法人の事業所、一般就労などまちまちです。

入居者のみなさんは平日どこかに通所・働いていますが、土曜日等の休みの過ごし方はそれぞれまちまちで、ヘルパーさんと買い物やカラオケに行ったり、なかには遠く離れた実家へ帰省されたり小旅行をする方もおられます。グループホームでは火災・地震等の災害等の万が一に備えて、防災訓練を毎月実施しています。

私たちが心がけているのは可能な限り入居者ご本人さんの希望に添えていくこと、また、地域で普通のくらしができるように地域に溶け込んでいくことの2点を大切にしてきました。

地域ごとの行事や清掃作業に地域住民の一員として参加しつづけています。地区の運動会に参加させていただいた年もありました。



地域の清掃活動に参加中



地域の運動会にも参加



桔梗が丘地区では毎年、桔梗が丘地区の民生委員児童委員協議会主催で私たちのグループホーム入居者をご招待いただき、クリスマス会を開催していただいております。16年間続いています。

大変楽しいひと時です。



ご招待を受けたクリスマス会



ホームにて団らん中

エピソードとしてこの地区にあるグループホームが老朽化して移転しなければならなくなり、ご近所にご挨拶に伺った際に「本当に残念だ」、「寂しくなる」等のお声がけをいただき、本当にグループホーム及び入居者がこの地域から愛されていたのだなということを実感しました。

さて、名張市は地域包括ケアシステムという流れに先駆けて様々な取り組みをしております。一例として市内を15地区にわけて、それぞれに「まちの保健室」を開設し、医療や介護の専門職を配置して、きめ細かく地域住民の健康予防・維持に努めています。このまちの保健室と日頃から連携を取りながら、住民としてのグループホーム入居者の支援にさらに充実していこうと考えております。

これからの課題ですが、3点あげたいと思います。1点は入居者ご本人の意志の決定を大切にする取り組みを強化していきたいと思います。そのためにはグループホームがより地域に開かれ、様々な社会資源にアクセスできるようにしていくことが大切だと考えています。そのためのネットワークづくりに力を入れていきたいと考えています。2点はグループホームには医療職(看護師等)の配置が義務化されておられません。入居者が高齢化・重度化していく際に、医療サポートは必須です。配置していただけるように行政へ働きかけていきたいと考えています。最後3点は16ホーム中4つのホームは入居者の平均年齢が65歳を超えております。高齢化していくなかで、身体機能の低下に対応した支援スキルをアップすることと、どこまでご本人さんの希望に応えた生活支援が可能かを見極めていかなければなりません。最終的にはグループホームでの看取りを考えていくということです。私たちは最終的にはどんなに障がいも重くても、地域で普通の暮らしができる、その支援に全力であたっていくと考えております。この紙面を読んでいる方々とも交流させていただき、一歩も二歩もそのような環境を共に作りあげていけたらと強く思っています。ありがとうございました。

# シリーズ【統合失調症～リレーメッセージ⑨～】

## 統合失調症 ～訪問看護の立場から～

特定非営利活動法人ナースカンパニー  
訪問看護事業所 所長 藪内 紀子

「精神科の訪問看護って何をやるの？」

精神科の訪問看護を受けていないステーションに勤めている看護師さんや昔の看護師仲間からよく聞かれる言葉です。

精神科の訪問看護でわたしたち看護師がしていること・・・

- 薬の管理（服薬の援助・副作用の観察と早期発見）
- 症状の管理（症状の観察と早期発見、身体合併症の観察）
- 日常生活での助言や援助（食事・睡眠・清潔・対人関係など）
- 対人関係スキルの向上に向けた助言や援助
- 適宜、主治医や関係機関との連絡、相談
- 家族からの相談に対する助言や援助
- 福祉サービスや相談窓口などの情報提供
- 就労支援、日中活動に向けた助言や援助 などがああります。



文字にすると難しい言葉もありますが、看護師でなくてもケアマネさんなども似たようなことは普通の業務の中でしてもらっていることばかりだと思います。精神科の訪問看護と言っても難しいことや特殊なことは何もしていないのです。『なんや、普通やん』精神科の訪問看護に初めて伺った時のわたしの素直な感想はこれでした。そう思った日から4年が経ち、今ではステーションの管理者もさせていただき、実習生を受ける立場にもなりました。一般病院の急性期病棟で14年勤めた後に就職したのが今のステーション。訪問看護で何をやるのかもわかっていなかったのに、看護学生時代に実習でしか経験のなかった精神科の訪問看護をすることになるとは夢にも思っていませんでした。精神疾患、統合失調症・・・耳にするだけで身構えてしまうようなわたしでしたが、今では精神科の訪問も楽しんで行けるようになりました。

同じように、一般病院での経験しかない他のステーションの実習生さんや看護学生さんから初めて精神科の利用者さんのお宅に訪問に同行した後は、4年前のわたしのように『全然普通なんですわね』の言葉をいただきます。

一般病院にしか勤めたことのない者からすれば、精神科は未知で、どう話しかけたらいいのか、言っはいけない言葉があるのではないかと感じてしまい、精神疾患を持った方は特殊、普通ではないという固定概念を持っていると思います。



精神疾患を持っていても何にも変わらない。病気の特徴や性質上、大変なことはたくさんありますが、人と人との関係を作ることに病気の種類は関係なく、相手を知りたい、解りたいという気持ちや相手に寄り添う気持ちが大事なんだと気づかせてくれたのは、精神科の利用者さんだったように思います。相手の言動に敏感な分、自分の看護観や関りが鏡のように利用者さんの精神状態に反映してしまう。訪問看護をしながら自分も成長させていただく毎日です。

疾患を抱えながらも、地域でその人らしく生活するにはどうしたらいいのか。日常生活の中での困りごとなどを一緒に考え、看護だけでは解決できないことを多職種と連携しながら、地域で利用者さんを支えていくお手伝いを、今後も精一杯させていただけたらと思います。

## 平成29年度事業報告・決算報告

## 平成30年度事業計画・予算計画

平成29年度事業報告	平成30年度事業計画																																																																																																
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理事会の開催 平成29年6月29日</li> <li>2 定期総会の開催 書面による報告</li> <li>3 第50回精神保健福祉三重県大会の開催 平成29年10月19日(木)13:30～ 県男女共同参画センター 多目的ホール (三重県総合文化センター内)</li> <li>① 三重県精神保健福祉協議会長表彰 個人の部 23名</li> <li>② 報告会 テーマ「これまでの取組みとこれから」 報告者 ・NPO法人三重県精神保健福祉会 ・(公社)三重断酒新生会</li> <li>4 メンタルヘルスだより「りれいしょん」 H29.8-第32号、H30.3-第33号を発行</li> <li>5 関係団体の育成 6団体に対して助成を行った。 1団体に対して奨励を行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理事会の開催 平成30年6月28日</li> <li>2 定期総会の開催 書面による報告</li> <li>3 第51回精神保健福祉三重県大会の開催 平成30年9月27日(木)13:30～ 県男女共同参画センター 多目的ホール (三重県総合文化センター内)</li> <li>① 三重県精神保健福祉協議会会長表彰 精神保健福祉に功労された個人、団体を表彰する。</li> <li>② 講演会 テーマ「精神障がい者の雇用の現状 について」 講師 三重労働局精神障害者雇用 トータルサポーター 高嶋 節子 氏</li> <li>4 メンタルヘルスだより「りれいしょん」 年2回 8・3月の発行予定</li> <li>5 関係団体の育成</li> </ol>																																																																																																
平成29年度決算	平成30年度予算																																																																																																
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">収入)</td> <td style="width: 10%;">会費</td> <td style="width: 10%;">1,273,038円</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>補助金</td> <td>323,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>繰越金等</td> <td>176,915円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1,772,953円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出)</td> <td>事務費</td> <td>29,304円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費</td> <td>848,135円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>対策費他</td> <td>635,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1,512,439円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	収入)	会費	1,273,038円					補助金	323,000円					繰越金等	176,915円					合計	1,772,953円				支出)	事務費	29,304円					事業費	848,135円					対策費他	635,000円					合計	1,512,439円				<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">収入)</td> <td style="width: 10%;">会費</td> <td style="width: 10%;">1,191,000円</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>補助金</td> <td>348,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>繰越金等</td> <td>261,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1,800,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出)</td> <td>事務費</td> <td>78,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費</td> <td>1,037,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>対策費他</td> <td>685,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1,800,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	収入)	会費	1,191,000円					補助金	348,000円					繰越金等	261,000円					合計	1,800,000円				支出)	事務費	78,000円					事業費	1,037,000円					対策費他	685,000円					合計	1,800,000円			
収入)	会費	1,273,038円																																																																																															
	補助金	323,000円																																																																																															
	繰越金等	176,915円																																																																																															
	合計	1,772,953円																																																																																															
支出)	事務費	29,304円																																																																																															
	事業費	848,135円																																																																																															
	対策費他	635,000円																																																																																															
	合計	1,512,439円																																																																																															
収入)	会費	1,191,000円																																																																																															
	補助金	348,000円																																																																																															
	繰越金等	261,000円																																																																																															
	合計	1,800,000円																																																																																															
支出)	事務費	78,000円																																																																																															
	事業費	1,037,000円																																																																																															
	対策費他	685,000円																																																																																															
	合計	1,800,000円																																																																																															

### 三重県精神保健福祉協議会入会のご案内

こころの健康・福祉に関する知識や情報を広めるために、広報誌や講演会などを通じて県民の皆様への普及活動をはじめ、関係団体の育成も行っております。

随時、会員を募集しています！

本協議会の趣旨に賛同される、個人・団体など広く会員を募集しております。

①個人会員 1口 1,000円 ②特別(団体)会員 1口 10,000円

#### 入会申込書

氏名又は団体名		
所在地		
電話番号	-	-
電子メールアドレス	@	
会員種別	個人会員	特別(団体)会員

★ 会費を銀行で振り込む場合は、次の口座に振り込んでください。  
(振込手数料は会費から差し引いてください)

百五銀行 県庁支店 普通 93524

み え けん せい しん ほ けん ふく し き ょ う き かい    じ ゃ う り し    く す も と  
三重県精神保健福祉協議会 常務理事 楠本 みちる

お問い合わせは、協議会事務局まで

# 第51回精神保健福祉三重県大会のお知らせ

今年度も下記の日程で大会を開催いたします。精神保健や福祉・医療の現場で、特に功績が顕著であると認められる方への表彰のほか、講演会を行います。

講演会は、三重労働局 精神障害者雇用トータルサポーターの 高嶋 節子 氏を講師にお招きし精神障がい者の雇用を取り巻く現状について、お話を伺いし、みなさんと共に考えたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしております。

## ● 開催日時

平成30年9月27日（木） 13:30～16:00

## ● 開催場所

三重県男女共同参画センター 多目的ホール  
（三重県総合文化センター内）津市一身田上津部田1234

## ● プログラム

開会式 13:30～13:40

表彰式 13:40～14:00

講演会 14:15～15:55

テーマ 「精神障がい者の雇用の現状について」

講師 三重労働局

精神障害者雇用トータルサポーター 高嶋 節子 氏

閉会式 15:55～16:00

※障害福祉サービス事業所、こころのボランティアによる作品展示即売を同時に開催いたします。

## ● 参加費

無料 ただし、講演会には申し込みが必要です。

## ● 申し込み期限

平成30年9月21日（金）

## ● 参加申し込み方法

下記の事務局の電話またはFAXにより申し込んでください。

## ● お問い合わせ先、参加申し込み先

三重県精神保健福祉協議会事務局

（三重県こころの健康センター内）

TEL 059-223-5241 FAX 059-223-5242

